

【参考資料】ハスモンヨトウについて

佐賀県農業技術防除センター

1. 形態

- ・成虫は体長約 15～20mm、翅の開張約 35～42mm、体色は灰褐色。
- ・卵は数百個が一塊となって葉に産みつけられ、黄土色の鱗毛によって薄く覆われている(卵塊)。
- ・若齢幼虫は頭が黒く、体は淡緑色。
- ・2 齢以降は頭部のやや後方に 1 対の黒い大きめの紋が見える。
- ・中齢以降の体色は褐色～黒褐色と個体群変異が多い。
- ・幼虫は 6 齢を経過し、最大約 40mm 程度になる。

卵塊



若齢幼虫 (1～2 齢)



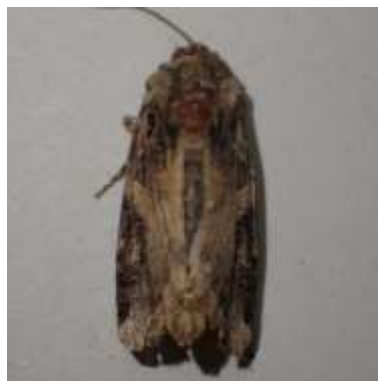
中齢幼虫 (3～4 齢)



老齢幼虫 (5 齢)



成虫



2. 発生生態

発生回数は年 5～6 回。1 雌あたりの産卵数は 1,600～3,000 であり、葉裏に数百粒をかためて産卵する(卵塊)。25℃での各生育ステージの期間は、卵 4 日、幼虫 16 日、蛹 14 日、羽化後産卵までの日数は 2 日であり、1 世代に要する期間は 36 日程度であるが、高温条件では成長が早くなる。野外越冬の可能性は低いとされているが、加温 施設内では冬期でも発生を繰り返し、越冬が可能である。また、夏季が高温少雨条件下で推移すると、多発傾向にある。

3. 被害および寄主植物

極めて広食性であり、本県では大豆での被害が多い。若齢幼虫が葉肉を食害して白色化させ、中・老齢幼虫は、葉脈を残して葉肉を食害するので、葉が網目状になる。発生量が多い場合は、莢まで食害する。平年では、8月中旬頃から白変葉が現れる。

野菜類ではイチゴ、アブラナ科野菜、ナス、トマト、アスパラガス、ハウレンソウ、サトイモ等、花き類ではキク、バラ、トルコギキョウ、カーネーション等で被害が見られる。

4. 防除対策

・8月中～下旬頃の白変葉が散見され始める時に1回目の防除を行い、その後は発生量に考慮して10～15日間隔で防除を行う。

・フェロモントラップを設置している地区や圃場においては、8月下旬～9月下旬にフェロモンによる誘殺数が増加すると圃場内の白変葉も増加する傾向がある。従って、フェロモントラップの誘殺数が急増した時に、圃場での白変葉やハスモンヨトウの発生状況を調査して防除要否を判断する。

・ハスモンヨトウは1回目の適期防除を行っても、その後の追加防除の要否はその年の気象条件や圃場によって異なる。特に、夏期が高温で経過し、大豆の生育が良好な年は、大豆白変葉の観察やフェロモントラップ調査をこまめに行い、防除が必要と判断された場合は、早急に追加防除を行う。